

#S4 Jr.篇 -T.C.4767-

日常ってのは、退屈なもんだ。
人間を殲滅しようとする、異形の存在との戦闘――
武装結社との抗争――
とてつもなく危険な、謎の物体の探索、回収――
どんな刺激だって、
繰り返していくうちに、感覚は麻痺していく。
だから――日常ってのは、退屈なもんだ。
ただ、日常って奴は時々、
とんでもない新手を打ってきやがるから、油断ならない。
そんなことくらい、承知のはずだったのに、
いつも忘れる。
――それが、人間ってもんだよな。

#S4 Jr.篇 -T.C.4767-

Jr.: 嵐の内は暗く、風邪は恐ろしく唸れり――
奇しくもそのさまは、赤子を抱く優しき揺りかごのごとく――か。
嵐の去った後はいたって静か、なーんの痕跡もないぜ、オーバー。
――にしても、ネロが釣りをしてるっていう地獄の湖は、こんな感じかもな。
メリィ『今日はえらい詩的ですよん、ちび様、どっから思いつきますのん、そういうの?』
Jr.: 本を読めよ、メリィ。楽しいぜ。
メリィ『本って、紙でできてますねやろ。持ち運びがめんどろでかなわんわ。』
Jr.: 光データよりも、石版や紙の方が保存性は上なんだぜ。枕にもなるしさ。

――測定値はどうだ、なんか出たか？
シェリィ『なにもありません、原子すら眠っているかのようです。』
Jr.: 水素[ガス]や塵[ダスト]も出ないのか？
もし原因が大型フレアなら、高エネルギー粒子ぐらいは残るはずだぞ。

まさかだろ――こないだまで、ここにはアリアドネが、惑星がひとつあったんだぜ――

デュランダル

シェリィ: ちび様を回収します。6 番カーゴベイ、開け――
百式: 6 番カーゴベイ、開きます。
メリィ: ほらほら、きりきり働くで！ 観測継続――！
シェリィ: ちび様には、すぐブリッジに上がってもらうよう、伝えて。
百式: わかりました――

Jr.: ーったく、信じられないぜ。
メリィ: ちび様、おつかれっ。
Jr.: おお――
完全にアリアドネが”消失”してるな。これは破壊されたってわけじゃあない、まるで何処かへ隠されたって感じだ。
メリィ: どこかって――どこですねん？
Jr.: さて――な、隠した張本人に聞くのが手っ取り早いだろ。
プライマーはどうだった、シェリィ？
シェリィ: ごく僅かですが、反応が出ています。間違いありません。
Jr.: 火遊びの残り火ってわけか。ここでエミュレーターを回収した艦隊のその後は？
百式: 6 時間前に救難信号が発せられてからは、沈黙を保ったままです。
メリィ: グノーシスかぁ――連邦の一個艦隊まで食われちゃったんかな。
Jr.: そうと決まったわけでもないぜ、子供の火遊びは親がきっちり後始末するってのが決まりだろ。
メリィ: なるほど、親がのこのこ出てくるかもしれませんわなあ。
Jr.: そーいうこと。船首回頭！
これよりデュランダルは、連邦艦隊遭難ポイントへ向かう。
シェリィ: 了解しました、ちび様――

遭難ポイントに漂っていたのは、
座礁したクジラみたいな、艦の残骸ばかりだった。
大海を雄大に泳いでいたクジラが、
全身を無数に食い荒らされている。
無理もない、
奴らは餌を積んで、サメの巣に入ったようなものだからだ――

Jr.: ビンゴ！ ゾハル保護リングの残滓を見つけ、その艦が積んでたようだぜ。

艦名は―――かろうじて、確認できるな。巡洋艦ヴォークリンデ、か。

シェリィ、シーケンシング・プライマーをセットだ。

シェリィ『了解、プライマー・ウォーキング開始。ゲートイン航跡を解析します。』

Jr.: 領域外だったら、お手上げだな。まだその辺りをフラフラしててくれることを祈るぜ。

メリィ『あんな奴らにフラフラしてて欲しいなんて――怖いのん、ちび様は？』

Jr.: グノーシスより怖いもんくらい、この世の中に山程あらあ。

――どうだ、やっぱりもう”あっち側”に行ってしまうか？

メリィ『そう急かさんといてな、ちび様。いま分析してるとこ――あらっ！？』

Jr.: どうした！

メリィ『警戒警報――ていうか、先客がおったみたいですねん。』

シェリィ『戦艦級1隻と機動兵器多数を確認、しっかり囲まれているようです。』

メリィ『ちび様、こいつら――』

Jr.: ああ、間違いねえ、U-TIC 機関だ。

メリィ『あかん、撃ってくるで！ ちび様、退避を！』

Jr.: ちい、連邦の艦が吹き飛ばされた。こいつら、証拠隠滅のために来てやがったな。

メリィ『ちび様、どないしますのん？』

Jr.: A.G.W.S.じゃあ、どうしようもねえな。帰還する、デュランダル火力で蹴散らすぞ。

デュランダル

百式: おかえりなさい、ちび様。

Jr.: どうなってる？

百式: 標準的な攻撃艦です、船籍は不明。

こちらは全兵装、即応態勢――インターロック解除、いつでも対応できます。

百式: 敵艦より攻撃。光子魚雷です！

Jr.: あいかわらず、せわしねーなあ。両舷、シールド展開。

百式: ――着弾まで、およそ 10 秒。

シェリイ: すべての百式は、副回線で高速度砲のシステムに接続。

百式: 高速度砲システム―――接続完了。

敵光子魚雷、左舷、シールド有効範囲に接触します。

シールド有効範囲に着弾、全弾消滅しました！

Jr.: ったく、俺たちは調査に来たんだぜ。いいかげんにしてくれよな。敵艦、軌道捕捉！

シェリイ: 軌道要素解析完了、前部レーザー、斉射用意――

Jr.: ――――失せな。

メリイ: ありゃ珍しい、ちび様の弾が外れるなんて――

Jr.: 外れたんじゃねぇ、外したんだよ。

――どうだ、敵艦は逃げたか？

シェリイ: いえ、こちらに接近してきます。砲撃戦ではかなわないと見て、白兵戦を挑むつもりなのでしょう。

Jr.: あ～あ、調査の終わってない現場を荒らしたくなかったんだけどなあ。

――そういうわけにもいかないか。シェリイ、ちょこっと突いてやんな。

メリイ: ちび様の”ちょこっと”はきつついからなあ。

シェリイ: 艦首衝角出せ、敵艦左舷に進攻――白兵戦用意。

百式: 敵艦、回避運動をはじめました。

Jr.: 遅いぜ！ ようし、俺は向こうに乗り込む。メリイ、ついてこい！

メリイ: ――了解！

百式: 艦首衝角、直撃します！

-

メリイ: 目標はこの艦のメインフレームや！ 各端末からマルチアプローチをかけてプロテクトブロック！

直後にターミナルからトライを試みる。――各班、行け！

U-TIC 艦

Jr.: ここがブリッジかー

メリィ: ちび様、敵の負傷者もまとめて、デュランダルに送っときましたわ。

Jr.: ああ、それでいい。

メリィ: さあて、はじめるでえ。

敵メインフレームへ侵入、さて、どないしょ。ここで記録するか、転送するかー

シェリィ『すでにマニュアルコードが打ち込まれていて、各パーティションが消えかかっているわ。

ー急いで転送して。』

メリィ: 了解、頭ン中空っぽにして待っときや!

Jr.: 毎度思うけど、姉妹で記憶連結[インターリンク]できるってのは、便利でいいな。

シェリィ『そうでもありませんわ、ーこの子は雑念が多くて。』

メリィ: しゃあないやん。レアリエンと違って、こちらは生身[アナログ]やねんから。

ちび様こそ、ガイナン様と念話できるやん。

そっちのが便利そうやわ、余計な機器いらんし。

Jr.: でもねーよ、意識領域の防壁に常に気を配ってないと、伝えたくない情報まで筒抜けになるからな。

おかげでムッチャ疲れるし、手紙書いて渡した方が楽なくらいだぜ。

メリィ: そないなもんかなあー

Jr.: そう、そうないなもー危ねえっ!

ーこのヤロツ!

U-TIC 機関員: ぐわっ!

Jr.: Go ahead, make my day!

ーふっ。

大丈夫か、メリィ。まだ潜んでる奴がいたとはな。

メリィ: 大丈夫やけどーもう、ちび様あ!

跳弾がケーブル、ちぎってもうたで!

Jr.: ええっ!

シェリィ『敵艦メインフレームの全データ、ロストしました。

ーご愁傷様です。』

Jr.: ー

—————悪い。

メリィ： もう、なにが” ごうあへっど・めいくまいでい” や。ガンアクション物の見過ぎやで。

ん、どうしたんや？

シェリィ『そちらの艦から、救命艇が射出されました。ちび様、追いますか？』

Jr.： いや、深追いすんな。行先だけわかりゃいい。U.M.N.管理局に逆探申請しておけ。

帰還するぞ！ デュランダル、収容準備急げ。

各班撤退時に装備の再確認、俺たちの痕跡を残すなよ。

メリィ： ——しかし、あれやな。ガン持ったんびに人格変わるな、ちび様は。

シェリィ『他者への間接的な征服心、絶対的権力への憧憬、巨根願望、

——一般的にはそんなとこね。』

メリィ： シレっというなあ、シェリィは。

シェリィ『もっとも、ちび様の場合は単なる身長へのコンプレックスでしょうけど。』

メリィ： そやな。けど、ちっさいちび様も素敵やで。

シェリィ『ふふ、そうね——メリィ、あと2分で撤退してちょうだい。急いでね。』

メリィ： 了解！

（せや——ちび様は——ちっさいままでおらな、あかんのや——）

デュランダル

百式： ——敵艦、爆散しました。

Jr.： で、結局——捕虜は全滅か？

メリィ： ええ、デュランダルに移ってきてから自決——うかつでしたわ。

Jr.： ったく、最後まで、いけすかない敵だったぜ。

シェリィ： ——ちび様、ゲートイン航跡の解析が終了しています。

Jr.： お、グノーシスの行き先わかったか。ってことは、こっち側に降りてきてるのか？

シェリィ： ええ、ゲートアウトして、通常空間に出現しています。

——それも、何者かと追っているのではないかと思われるふしがあります。

Jr.： へえ——

こいつは見逃す手はねえな。よし、その現場に急行する。

緊急ゲートジャンプ用意！

シェリィ： 了解しました——

その時、俺は知らなかった。

この直後の戦闘を経て、俺は――

ずっと会いたかった、

だが、会うつもりがなかった相手と、対面することになるのだと――

そしてそれが――

その日の日常が打ってきた、油断のならない新手だったんだ。